

【共通】

名称	昭和ランチ				
提出日	令和	8	年	6	月 1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり ～効果的な周知と早期介入の仕組みづくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域との繋がりが希薄で、孤立状態にある高齢者やその家族が散見される。 ・高齢者本人のみならず、「8050問題」等、世帯全体が複合的な課題を抱えるケースが増加している。 ・認知症や権利擁護等に関する市民の知識・理解が不足しており、一層の啓発が必要である。	
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関	
地域特性	・南北に広く、エリアごとに多様な特性を持つ。北部は新築マンションや商業・教育施設が多く多世代の交流が活発な一方、中部は長池公園があり閑静な住宅街、南部は単身者向けマンションや文化住宅が密集しており、地域間の経済的・環境的格差が見られる。 ・圏域内に3カ所の地域会館があるものの、活動行事が減少しており、住民の集いの場が縮小傾向にある。	
活動目標	・積極的なアウトリーチによる早期発見・早期相談への接続を図り、地域住民との「顔の見える関係」を構築する。 ・多様な広報手段を活用して「昭和ランチ」の認知度を向上させるとともに、住民にとって有益な情報を発信する。 ・認知症や権利擁護に関する正しい理解を促進し、多職種協働のもと「誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を推進する。	
活動内容 (具体的取組)	【地域の集いの場へのアウトリーチ】百歳体操、ふれあい喫茶、なにわ元氣塾等へ定期的に出向き、ランチの周知や住民と直接関わる機会を増やし、顔の見える関係づくりを進めた。その場での出張相談や、住民からの「気になる高齢者」情報の収集を行い、地域福祉コーディネーター等と連携した早期対応を実施した。 【広報誌の発行による情報発信】地域包括支援センターや地域福祉コーディネーターと協働し、福祉広報誌「長池ふくしだより」を年3回発行。班回覧等を通じて幅広い世代へ相談窓口の周知を図った。 【多職種連携による啓発講座の開催】地域包括支援センターや地域活動協議会と連携し、「長池ふくし・健康講座」を年10回開催。介護予防、ACP、成年後見制度、認知症等の住民の関心の高いテーマを取り上げ、啓発活動を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域行事への積極的な参加によりランチの認知度が向上し、地域住民や町会役員（女性部長等）からの相談件数が増加、アウトリーチによる早期対応が実現した。 ・「長池ふくしだより」を班回覧やイベント等で広く配布した結果、世代を問わず相談窓口の周知が進んだ。実際に広報誌を契機とした相談も寄せられており、広報媒体としての有効性が確認された。 ・全10回の「長池ふくし・健康講座」を通じ、権利擁護や認知症に関する市民の理解が深まった。また、普段地域との関わりが希薄な高齢者やそのご家族が参加される機会となり、新たなつながりが生まれ相談支援につながった。	
今後の課題	【潜在的な孤立ケースへのアプローチ】周知活動の成果は出つつあるが、地域とのつながりを持たない高齢者「8050問題」を抱える世帯は依然として潜在している。事態が深刻化する前に早期介入できるよう、地域包括支援センターや地域福祉コーディネーター等との連携をさらに強化し、多角的なアウトリーチ手法を模索する。 【広報活動のブラッシュアップ】「長池ふくしだより」の内容が形骸化・マンネリ化しないよう、住民の関心を惹きつけるタイムリーな企画を取り入れ、より効果的な発信を継続する。 【継続的な啓発と参加促進】権利擁護や認知症に対する市民の理解はまだ道半ばである。「長池ふくし・健康講座」	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月10日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	昭和ランチとして、長く地域と密接な関係を築き、地域の課題に対しても積極的に取り組む姿勢、地域福祉コーディネーターや地域からの信頼の厚さはまさに「地域性・継続性・浸透・拡張性」に該当する。さらに、保健師や包括支援センター、地域活動協議会と連携し、独自の情報誌を定期的に発行したり、福祉健康講座を年10回企画開催するなど、発想豊かに活動していることは「専門性・独自性」に該当する。	

課題対応取組報告書

【共通】

名称	高松・文の里地域総合相談窓口						
提出日	令和	8	年	6	月	12	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	気づき合い、支え合い、つながる地域へ				
地域ケア会議から 見えてきた課題	・困りごとに気づかれず相談が遅れ、問題が深刻化しやすい ・相談先がわからない住民が多く、窓口の認知が不足している ・地域活動の場が遠く、住民が参加しづらいためつながりが生まれにくい				
対象	地域住民、地域関係者など				
地域特性	高松地域：地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 文の里地域：昔ながらの一軒家が多い。会館が地域の真ん中にあり住民が活動に参加しやすい。 常盤地域：人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。地域の会館が3か所ある。				
活動目標	地域活動への継続的な参加と情報交換を通じて、住民と関係者とのネットワークを広げ困りごとの早期発見と相談に繋がる環境を作る。				
活動内容 (具体的取組)	・地域包括支援センター（以下「包括」という）と共同し、たかまつ健康の集いを隔月開催で立ち上げた ・地域イベントや小学校での福祉教育に積極的に参加し、幅広い年代と交流を図った ・ランチ圏域における小地域ケア会議では包括と共催し地域関係者や関係機関と地域のことを考える場として情報交換を行なった				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・定期的に地域活動に参加したことでランチの周知ができており、住民や地域関係者からの相談に繋がってきている。 ・たかまつ健康の集いでは既存の活動に参加されなかった方の参加につながっている。またテーマによっては圏域を越えて参加される方もおり健康への意識の高さがうかがえた。 ・文の里健康の集いでは成年後見制度についての勉強会を行い、将来に備えての学びのきっかけとなった。 ・小地域ケア会議では地域関係者の声を聴くことができ、事例紹介により相談のハードルが下がり、早期相談・早期対応につながる環境ができていく。				
今後の課題	包括に初回相談が集中しており、ランチの役割が十分に認識されていない。健康のつどい・地域活動への参加は進んでいるが、まだ参加層が限定的で支援が必要な住民に届きにくい。8050問題や支援拒否など複合多問題のケースが増加しており、他機関連携の仕組みをさらに強化する必要がある。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区ランチ 運営協議会開催日	令和8年7月10日（金）				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目（特性） についてのコメント	北部包括支援センターと協働して、定期的に地域へランチの広報活動を展開し、確実に住民や地域関係者からの相談に繋がっている。また、小地域ケア会議で事例紹介を行う事で「そんなことでも相談していいのか」と相談へのハードルを下げたことは「地域性・継続性・浸透性・拡張性」に該当する。新たにたかまつ健康の集いを立ち上げて、これまでとは異なる参加者を得られたことやテーマによっては圏域外の住民の参加があったこと、さらに将来に備えての学びのきっかけとして、文の里地域において成年後見制度について、普段では聞けない専門的な話を地域住民向けに分かりやすい学習会を行ったことは、「専門性・独自性」に該当する。				
* 今後の取組継続に向けて、区ランチ運営協議会からの意見等を記載。					